



昔のくらし



戸田市立郷土博物館

はってん へん か ～戸田の発展と生活の変化～

数十年の間に戸田は、人口が増え、村から町、市へとなり、農村地帯からマンション・倉庫等が建つ町へと変わりました。

この間の暮らしに目を向けると、自然の力を利用した生活から、電気・ガス・水道を使える便利な生活に変わりました。

本冊子では、主に昭和時代に使われていた道具や当時の写真をとおして、人々の暮らしと戸田の町並みの移り変わりを見ていきます。

はき もの 服や履物も変わる

昭和20年代まで



昭和30年代以降



昭和46年(1971)2月

か 道具も変わる



たらいと洗濯板
せんたくいた



一槽式洗濯機
いっそうしきせんたくき



ちゃぶ台



ダイニングテーブル



足踏みミシン
あしぶ



電動ミシン

昭和20年代まで [70年くらい前まで]

明治22年(1889)にできた戸田村、笹目村、美谷本村は、昭和16年(1941)に戸田村が戸田町に、昭和18年(1943)に笹目村と美谷本村が合併して美笹村になりました。

この当時の戸田は、住宅地よりも農地が広がっていました。近くを流れる荒川は、上流から作物がよく育つ栄養のある土砂を運ぶ一方で、洪水による被害をもたらしました。その対策のために荒川の改修工事が行われ、くねくね曲がっていた川の流れを緩やかなカーブに変え、堤防が造られました。

明治時代末期には、ランプが広く普及し、大正2年(1913)に上戸田地域に電灯が灯りましたが、まだ電気に頼らない生活を送っていました。昭和16年に始まった戦争により、昭和20年(1945)の終戦後も、食べ物、生活用品等が不足し、厳しい生活が続きました。

* 戸田の主なできごと

- 明治 4年(1871)：埼玉県ができる。
- 6年(1873)：美女木学校(美谷本小学校)、新曽学校ができる。
- 7年(1874)：笹目学校(笹目小学校)、戸田学校ができる。
- 8年(1875)：木橋戸田橋(初代)が完成する。
- 10年(1877)：上戸田学校(戸田第一小学校)ができる。
- 22年(1889)：戸田村、美谷本村、笹目村ができる。
- 44年(1911)：荒川下流改修工事が東京側から始まる。
- 大正 2年(1913)：戸田に初めて電灯がつく。
- 昭和 7年(1932)：鉄橋戸田橋(3代目)になる。
- 8年(1933)：国道9号線(現在の17号国道)が開通する。
- 15年(1940)：ボートコースができる。
- 16年(1941)：戸田村が戸田町になる。
- 太平洋戦争が始まる。
- 18年(1943)：美笹村ができる(美谷本村+笹目村)。
- 20年(1945)：太平洋戦争が終わる。
- 22年(1947)：戸田中学校、美笹中学校ができる。
- 26年(1951)：戸田橋花火大会が始まる。
- 27年(1952)：戸田第二小学校ができる。
- 29年(1954)：町営住宅ができる。
(下戸田新田、新曽柳原)

▼ 町の様子



航空写真(戸田) 昭和19年(1944)

※国土地理院データを加工



鉄橋戸田橋（3代目） しょうわ 昭和7年(1932)



ちやうえいじゆうたく
町営住宅 昭和29年(1954)



ボートコース 昭和29年(1954)

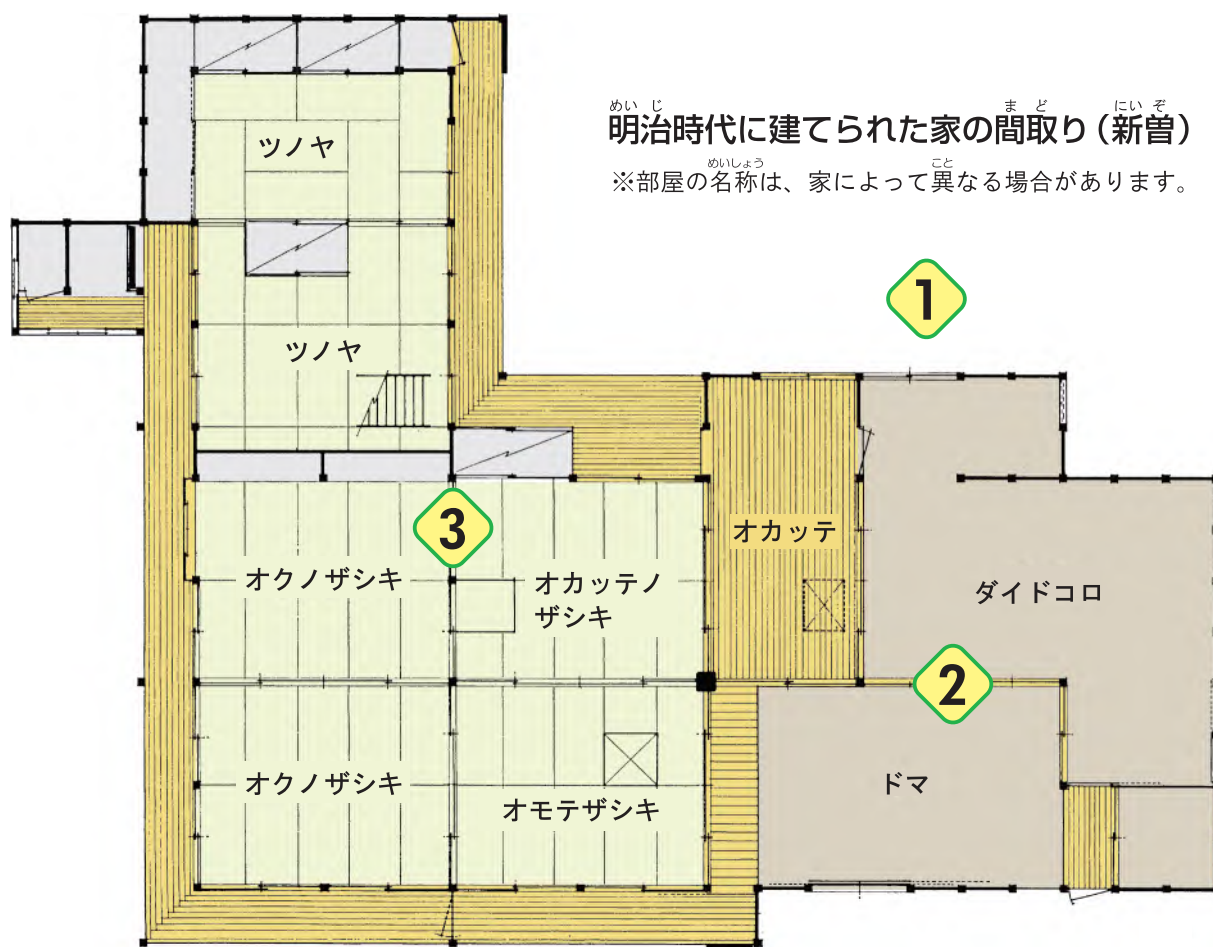


もくぞう きゆう
木造の旧戸田町役場 昭和16年(1941)～昭和32年(1957)

たいしょう
大正6年(1917)に
建てられた戸田村
役場を何度か増築
そうちく
して使っていました。

戦前まで建てられてきた家

昭和初期くらいまで、戸田は住宅地よりも農地が広がっており、ほとんどが農業を営んでいました。戸田の農家は、土や木、植物等の自然の材料で造られた、かやぶき屋根の一戸建てでした。電気、ガス、水道は全ての家にはなく、薪や炭を使って火を起こしたり、井戸から水をくんで暮らしていました。家の中には、土を固めた土間、板の間、畳が敷かれた部屋がありました。それぞれの部屋は、障子やふすま、板戸で仕切られており、人が多く集まる場合は、障子等を外して一つの大きな部屋として使いました。



民家（新曽）



馬による田うない 大正4年(1915)以前

1

農家の外にある道具等



べんじょ
外便所

農作業中の汚れた服や履物のままでも使えるように、トイレを外に作る家が多くありました。ためておいた便は、作物の肥料に使用しました。



いど て お
井戸・手押しポンプ

井戸は、水道がない時代に地下から水をくむために作られました。昔は滑車とロープを使っておけで水をくんでいましたが、後に手押しポンプが登場しました。手押しポンプは、レバーを上下させると子供でも簡単に水をくむことができます。



ま
マンガ（馬ぐわ）

馬や牛に引かせ、土を細かく砕いて田んぼを平にする道具です。牛馬の後ろで人が取っ手を握って動かせます。



あしぶ だっこくき
足踏み脱穀機

足でペダルを踏んでドラムを回し、ドラム部分に稲穂をあててもみを取る道具です。



台所とかまど

台所は、土を踏み固めた土間にありました。かまどは、下から薪等の燃料で火をつけ、上に鍋や釜を置いて、食べ物を煮炊きします。かまどを使うときは、火加減等の調整が必要なため手間がかかりました。



氷冷蔵庫

上の段に氷を入れ、その冷気で下の段に置いた食べ物を冷やす道具です。夏に食品を保存するために使いました。



火消しつぼ

薪が燃えて炭のようになった「おき」を入れて安全に消火する道具で、かまどの近くに置きました。金属、土、アルミで造られたものがあります。

始めチヨロチヨロ
なかバツバ



はがま 羽釜

かまどでご飯を炊くための道具です。かまどに掛けるつばの部分（はね）が羽のような形をしているので、「羽釜」といいます。汁がふきこぼれないように重い木の蓋が付いています。

3

部屋にある道具

こたく
五徳



ひ ばち
火鉢

中に灰を入れ、炭に火を付けて温まるための道具です。五徳に鉄瓶を置いて湯を沸かしたり、火鉢に網を載せて餅を焼いたりしました。



しんくうかん
真空管ラジオ

ラジオは、新聞や手紙等に比べて、より早く情報を得ることができました。ラジオ放送が始まると、人々の間にすぐに広まってきました。



〈後ろ(全体)〉



〈前(上部)〉



かいまき

着物の形をした掛布団です。えりが肩をすっぽり包むため、四角い布団に比べてすき間ができず温かく眠れます。着物のように袖に腕は通しません。

炭火アイロン

炭火の熱と重さを利用して布のしわを伸ばしたり、折り目を付ける道具です。炭が燃えやすいように空気を入れるための煙突が付いています。



昭和30～40年代 [50～60年くらい前]

昭和32年(1957)に戸田町と美笹村が合併して戸田町となり、昭和41年(1966)には市制を施行し、埼玉県内で24番目の市となりました。人口も増え、戸田の各地域には、小・中学校が次々と建てられました。

この頃の主なできごととしては、東京オリンピックの開催と新大宮バイパスの開通があります。東京オリンピックでは、戸田ボートコースがボート競技の会場として使われました。

この時期、日本は急速に産業を発展させ、人々の生活が豊かになっていきました。電気・ガス・水道が整備され、電気製品等が家庭の中に増え、家事にかかる時間が短くなり、時間に余裕を持てるようになりました。

戸田で給水が始まったのは、昭和30年(1955)からです。テレビやステレオといった、今までにはなかったような情報や娯楽の電気製品も登場しました。

* 戸田の主なできごと

昭和30年(1955)：町営住宅ができる。
(下戸田前新田、川岸、新曽柳原、上戸田後谷)

下戸田地区の一部で給水が始まる。

32年(1957)：戸田町が美笹村と合併する。

34年(1959)：日本住宅公団 戸田団地の入居が始まる。

35年(1960)：戸田東中学校、新曽小学校ができる。

38年(1963)：戸田東小学校ができる。

39年(1964)：戸田高等学校ができる。

東京オリンピックのボート競技が戸田ボートコースで行われる。

笹目橋ができる。

41年(1966)：戸田町が戸田市になる。

43年(1968)：戸田南小学校、喜沢小学校ができる。

三領樋門排水場が完成する。

45年(1970)：新大宮バイパス上下四車線が開通する。

戸田市役所の新庁舎ができる。

47年(1972)：笹目東小学校ができる。

48年(1973)：新曽北小学校ができる。

▼ 町の様子



航空写真(戸田市域) 昭和48年(1973)

昭和30～40年代頃の家

昭和30～40年代になると、戸田にも、昔ながらの民家が残る一方、新しい建築様式による家や団地が建ちました。現在のように電気、ガス、水道が整備され、立って作業ができるダイニングキッチン(台所と食事をする部屋)、いすに座って食事をするダイニングテーブル、そして冷蔵庫やテレビなどの電気製品が身の回りにある暮らしが始まりました。

団地の間取り



日本住宅公団 戸田団地 昭和30年代

1

ダイニングキッチンにある道具



こうだんじゅうたく
公団住宅のキッチン



さいげん じょうせつてん じ して
団地の再現（常設展示室）



れいぞう こ
電気冷蔵庫

れいとう きのう つ
冷凍と冷蔵の機能が付き、家庭で氷を作ったり、食べ物を何日も保存できるようにになりました。



すいはん き
電気炊飯器

手間がかかるかまどでのご飯炊きに対して、スイッチを押すだけでご飯を炊くことができる道具です。



トースター

パンにこんがりと焼き目をつけるための道具です。片面焼きのターンオーバー型や両面焼きのポップアップ型等があります。この頃から、パンを食べることが増えていきました。

2

部屋にある道具



部屋の様子 しょうわ 昭和40年(1965)



ガストーブ

ガスを^{りよう}利用して部屋を^{あた}暖める道具です。
ねんりよう ぼくきゅう 燃料を補給しなくても使えるため^{べんり}便利です。



ダイヤル式電話

^{じゆわき}受話器をあげ、番号の書かれたダイヤルの^{あな}穴に指を入れて、右下の金具のところまで回して電話をかけます。



そうじき
掃除機

家の中の掃除は、はたき、ほうき、ちり取りを使って行っていたが、掃除機の登場により、掃除の仕方が「掃き出す」から「吸い込む」に変わっていきました。



時計付きラジオ

ラジオはどんどん小型化し、様々な機能が付くようになりました。これは、目覚まし時計として時間になるとラジオをかけることができます。



フィルムカメラ

当時のカメラは、自分でピントを合わせ、本体にセットしたフィルムと呼ばれる半透明のシートに映像を焼き付けました。



白黒テレビ

日本でテレビ放送が始まったのが昭和28年（1953）です。当時のテレビは、厚みがあり、映像は白黒で、テレビのつまみを回して番組を変えました。

昭和50～60年代 [30～40年くらい前]

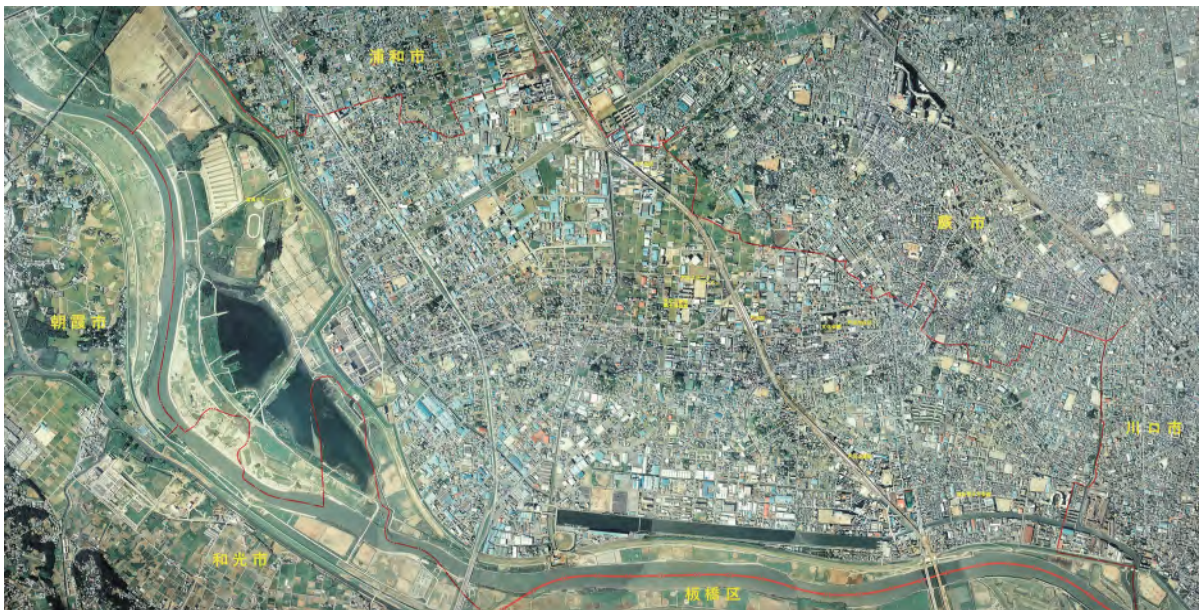
昭和50年代中頃から、戸田にスポーツセンターや図書館・郷土博物館等の公共施設が建てられました。昭和60年(1985)9月30日には、東北新幹線と合わせて建設された埼京線が開通し、市内には3駅が造られました。大型のマンションや住宅が次々に建てられ、その結果農地はほとんど見られなくなりました。

この頃、急速な技術の発展と工業生産の拡大により、電気製品は、より高性能で小型化されていきました。主な電気製品には、個人用のパソコンやテレビゲーム機等があります。昭和60年代になると、通信の発達によって、インターネットや携帯電話が登場し、人々はさらに便利で快適な暮らしができるようになりました。

* 戸田の主なできごと

- 昭和50年(1975)：喜沢中学校ができる。
- 51年(1976)：市の木「モクセイ」、市の花「サクラソウ」が決まる。
戸田の水道普及率が100パーセントになる。
- 52年(1977)：新曽福祉センターができる。
新笹目橋が開通する。
- 53年(1978)：新曽中学校ができる。
戸田橋(4代目)が架け替えられる。
- 54年(1979)：笹目中学校ができる。
文化会館建設予定地から縄文人骨が発見される。
- 55年(1980)：美女木小学校、南稜高等学校ができる。
文化会館、スポーツセンターができる。
- 58年(1983)：図書館ができる。
- 59年(1984)：中国開封市が友好都市になる。
郷土博物館ができる。
- 60年(1985)：東北・上越新幹線(上野駅始発)が開業する。
埼京線が開通する。
戸田公園駅、戸田駅、北戸田駅ができる。
- 64年(1989)：1月8日、元号が昭和から平成に変わる。

▼ 町の様子



航空写真(戸田市域) 昭和61年(1986)



文化会館建設
昭和54年(1979)



図書館・郷土博物館建設前
昭和56年(1981)



埼京線北戸田駅 昭和60年(1985)



埼京線開通時 昭和60年(1985)

パソコン、 ゲーム機 の普及



ワードプロセッサ (ワープロ)

文書を作り、編集し、印刷することができる専用の機械で、ワープロと呼ばれています。パソコンとは、キーボードの配置や名前が異なります。



パーソナルコンピュータ (パソコン)

個人用の小型コンピュータで、パソコンやPCと呼ばれています。1970年代後半にアメリカのアップルコンピュータが発売したのが始まりです。文書や絵を作り、計算することができます。



カラーテレビゲーム6

昭和52年(1977)任天堂から発売された家庭用ゲーム機です。内蔵された6種類のゲームで遊ぶことができます。

ファミリーコンピュータ (ファミコン)

昭和58年(1983)に任天堂から発売された家庭用ゲーム機です。ゲームカセットを入れて遊びます。



明かりの移り変わり



あんどん
行灯

江戸時代から使われていた明かりです。灯明皿に植物の油を入れ、油にひたした芯に火をつけて使います。和紙を通した明かりは、柔らかく優しい光になります。



とうみょうざら
灯明皿



しょく台

江戸時代から使われていた明かりです。ろうそくを立てて使います。和ろうそくは、燃やすと芯が炭になって残るので、時々芯を切らなくてはなりませんでした。



和ろうそく



石油ランプ

明治時代中頃から使われた明かりです。石油にひたした芯に火をつけ、ガラスの覆い「ほや」を被せて使います。



でんとう
電灯

石油ランプに代わる明かりです。戸田に電灯が登場したのは、大正2年（1913）でした。

◆ 凡 例

- ・本冊子は、戸田市立郷土博物館で開催する「昔の暮らし展」の展示解説冊子である。
- ・小学3年生社会科で学習する「人々の暮らしのうつりかわり」の教育内容を考慮し、衣食住に関係する資料と写真を中心に構成した。
- ・本冊子内で使用する漢字のほとんどは常用漢字とし、小学4年生以降に習う漢字（それを含む熟語）及び固有名詞にはルビを付けた。1ページ内で同じ漢字が出てくる場合、最初に出てくる漢字にルビを振った。
- ・掲載資料は、全て当館所蔵資料である。
- ・本冊子の執筆及び編集は、戸田市立郷土博物館学芸員亀山沙希、山内朋子が担当した。
- ・掲載写真の年号は、撮影年（推定を含む）であり、撮影年がわかるもののみ記載した。

【主要参考文献】※順不同

- 小泉和子『昭和の暮らし博物館』（河出書房新社、2000）
『特別展図録 飯能、戦後の暮らし～わたしたちを豊かにしたモノ～』（飯能市郷土館、2000）
『戦後松戸の生活革新』（松戸市立博物館、2000）
『暮らしのうつりかわり～電気製品の今・昔～』（明石市立文化博物館、2003）
『昔の暮らしの道具事典』（岩崎書店、2004）
『いまに伝える農家のモノ・人の生活館』（柏書房、2004）
『ポプラディア情報館 衣食住の歴史』（ポプラ社、2006）
『暮らしの道具～台所・住まいの道具編～』（船橋市郷土資料館、2010）
『総合百科事典ポプラディア』 1・5・6・7・8・11（ポプラ社、2011）
-
- 『戸田市文化財調査報告書XIV 戸田市の民家』（埼玉県戸田市教育委員会、1978）
『戸田市史』 民俗編（戸田市、1983）
『戸田市史年表』（戸田市、1991）
『たんけん昔の暮らし』（戸田市立郷土博物館、2011）
『わたしたちのとだ 第3・4学年社会科副読本』 令和4・5年度用（中央社、2022）

はっけん 昔の暮らし

- ・令和6年(2024)1月発行
- ・編集／発行：戸田市立郷土博物館



戸田市立郷土博物館

〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曽1707番地

TEL:048-443-5600 FAX:048-442-8988

<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/377/>